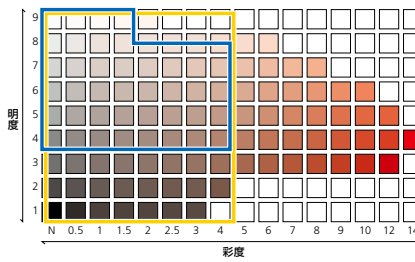


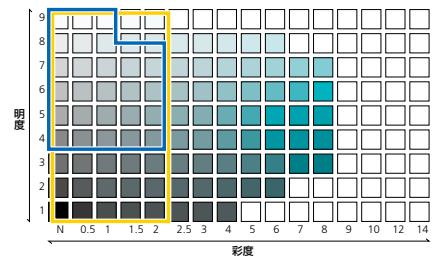
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～4.9YR	4以上8.5未満の場合 8.5以上の場合	4以下 1.5以下
	5.0YR～5.0Y	4以上8.5未満の場合 8.5以上の場合	6以下 2以下
	その他	4以上8.5未満の場合 8.5以上の場合	2以下 1以下
強調色	0R～4.9YR	—	4以下
	5.0YR～5.0Y		6以下
	その他		2以下

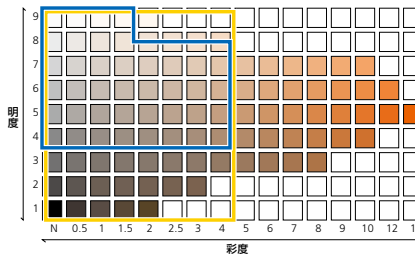
R (赤) 系の色相



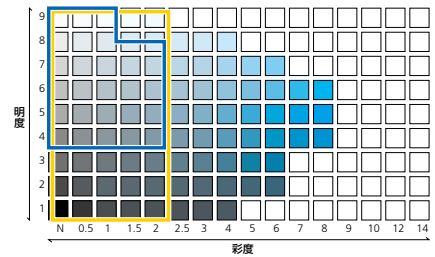
BG (青緑) 系の色相



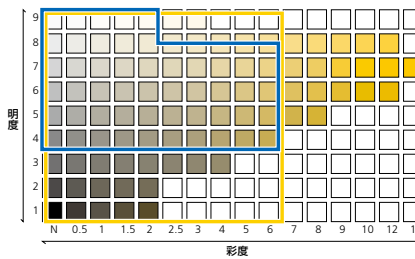
0YR～4.9YR (黄赤) 系の色相



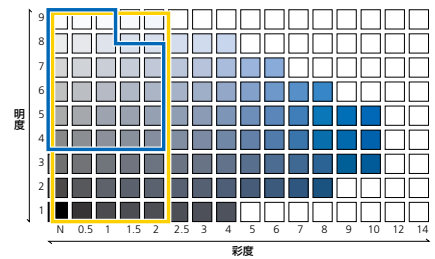
B (青) 系の色相



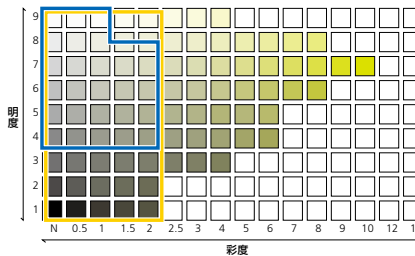
5YR (黄赤)～5Y (黄) 系の色相



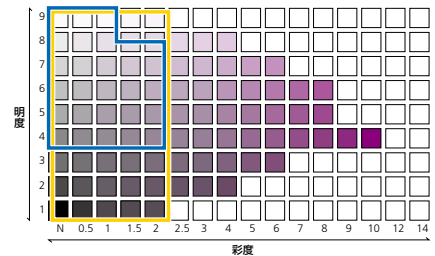
PB (青紫) 系の色相



5.1Y (黄) 系～GY (黄緑) 系の色相



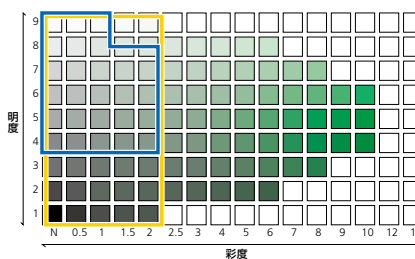
P (紫) 系の色相



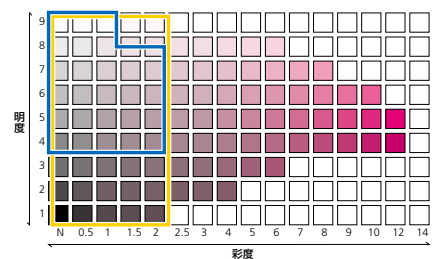
凡例

- 外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の使用可能範囲
(外壁の1/5以下で使用可能)

G (緑) 系の色相



RP (赤紫) 系の色相



大規模建築物等（景観条例による事前協議案件）の色彩 …04-2～04-5以外の区域における景観誘導

景観誘導の対象

色彩基準の対象	都市開発手法	誘導区域
大規模建築物等の建築等に係る事前協議制度の対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画法第8条第1項第3号の高度利用地区 ・都市計画法第8条第1項第4号の特定街区 ・都市計画法第8条第1項第4号の2の都市再生特別地区 ・都市計画法第12条第1項第4号の市街地再開発事業 ・都市計画法第12条の5第3項の再開発等促進区を定める地区計画（以下「再開発等促進区」という。） ・建築基準法第59条の2の総合設計（都が許可する建築物に限る。ただし、区市等が所管する建築物についても、当該区市と協議の上、都の景観計画との整合が図られるように努める。） ・都市計画法第8条第1項第2号の3の特例容積率適用地区 ・また、上記以外に景観基本軸や景観形成特別地区内などで良好な景観を形成する上で、知事が必要と認める事業（例えば、景観基本軸や景観形成特別地区内で行われるPFI法に基づく事業及びPFI的手法に基づく事業や鉄道駅構内等開発計画など）についても、事前協議の対象とし、良好な景観の形成に努める。 	都内全域 (05-2～05-5の区域を除く)

景観誘導の目的

- ・特定街区や総合設計など都市開発諸制度などを適用して計画される建築物は、大規模で周辺の景観に与える影響が大きいことから、計画の早い段階から事業者と景観形成基準に基づく協議を行い、街並みと調和した質の高い開発を誘導していくこととします。

大規模建築物等の色彩の現況

- ・大規模建築物等の色彩は、全体の8割程度がYR（黄赤）やY（黄）などの暖色系色相を基本としており、明度は7以上の明るい色調が全体の7割程度を占めています。また、彩度は3以下の色彩を基調とするものが9割程度に達しています。

色彩景観形成の考え方

- ・大規模建築物等の色彩は、暖色系を主体としつつ、明度の低い暗い色彩や、彩度の高い鮮やかな色彩を避け、多くの建物が継承してきた品格のある東京の景観をより洗練させながら継承していくことが大切です。
- ・外壁の基本色は、品格のある低彩度色に限定するとともに、外観に大きな影響を与える強調色についても落ち着きが感じられる中彩度までの色彩とします。
- ・外壁のアクセントとして用いる色彩について、その面積は外壁各面の5%以下とし、主に建物中低層部で用いるようにして下さい。



大規模建築物等の現況（中央区京橋周辺）

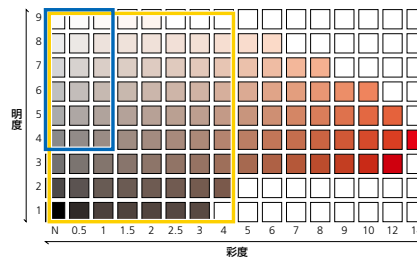


大規模建築物等の現況（品川区北品川周辺）

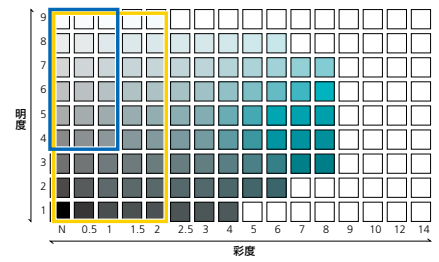
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0YR～5.0Y	4以上8.5未満の場合	3以下
	その他	8.5以上の場合	1.5以下
強調色	0R～4.9YR	—	4以下
	5.0YR～5.0Y		6以下
	その他		2以下

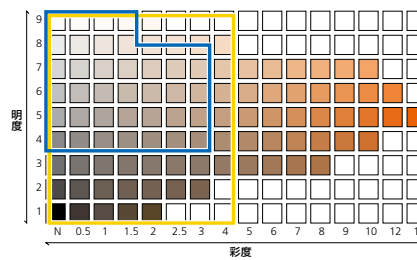
R (赤)系の色相



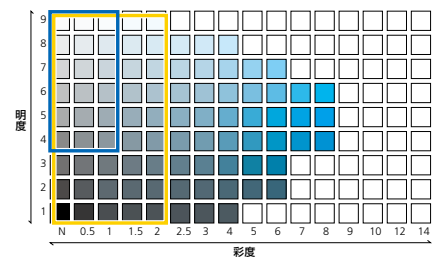
BG (青緑)系の色相



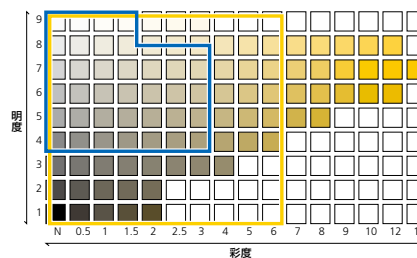
0YR～4.9YR (黄赤)系の色相



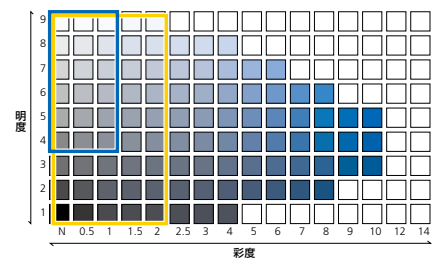
B (青)系の色相



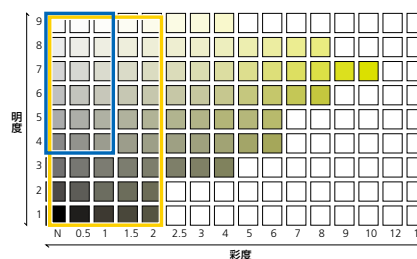
5YR (黄赤)～5Y (黄)系の色相



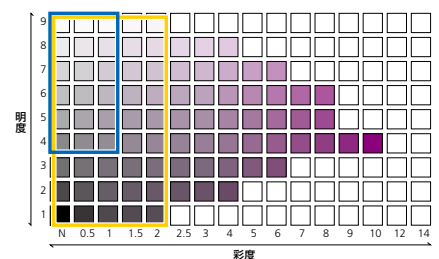
PB (青紫)系の色相





5.1Y (黄)系～GY (黄緑)系の色相



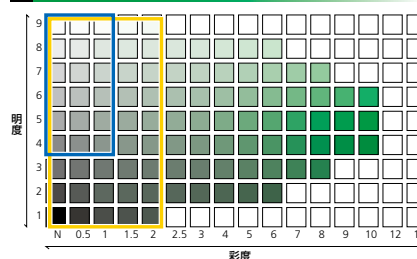
P (紫)系の色相



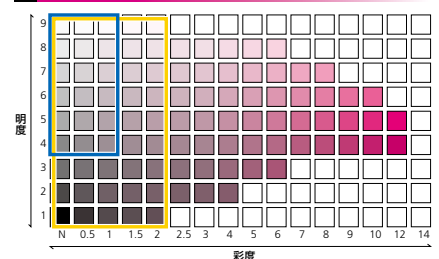
凡例

-  外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)
-  外壁強調色の使用可能範囲
(外壁の1/5以下で使用可能)

G (緑)系の色相



RP (赤紫)系の色相



大規模建築物等（景観条例による事前協議案件）の色彩

…国会議事堂、迎賓館、絵画館、東京駅丸の内駅舎の眺望の保全に関する景観誘導

景観誘導の対象

制度	区域の範囲
国会議事堂、迎賓館、絵画館、東京駅丸の内駅舎の眺望の保全に関する景観誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・国会議事堂 ・迎賓館（赤坂離宮） ・明治神宮聖徳記念絵画館 ・東京駅丸の内駅舎 保全対象建築物からおおむね4kmまでの範囲とする。

景観誘導の目的

- ・我が国の近代化の過程で、首都東京の象徴性を意図して造られた建築物は、その周辺を含め、今日も風格ある景観を形成しています。
- ・これらの建築物を中心とした眺望が保全されるよう、当該建築物の周辺で計画される建築物等の規模、色彩等を適切に誘導することを目的としています。

保全対象の色彩

●国会議事堂

- ・暖色の色味をもった石材で構成されています。
- ・マンセル値で9.0YR7.0/3.0程度の色彩です。



国会議事堂（外壁色9.0YR7.0/3.0 彩度:3）

●迎賓館（赤坂離宮）

- ・外壁は、低彩度色（5Y7.5/1.0程度）の石材です。
- ・特徴ある銅葺きの屋根は、緑青色となっており、マンセル値で10G8.0/3.0程度の色彩です。



迎賓館（赤坂離宮）（屋根色10G8.0/3.0 彩度:3）

色彩景観形成の考え方

- ・外壁の大部分については、眺望の主要対象となる建築物の彩度を超えないものとします。（国会議事堂の外壁、絵画館の外壁、迎賓館の屋根の彩度が3程度です。）
- ・外壁のアクセントとして用いる色彩については、落ち着きが感じられる中彩度までの色彩を用いるとともに、外壁各面の5%以下とし、主に建物中低層部で用いるようにして下さい。

●明治神宮聖徳記念絵画館

- ・外壁は、黄赤みがかった石材です。マンセル値では、7.5YR6.5/3.0程度の色彩です。
- ・屋根の一部に見られる緑青色は、マンセル値で10G8.0/2.0程度です。



明治神宮聖徳記念絵画館（外壁色7.5YR6.5/3.0 彩度:3）

●東京駅丸の内駅舎

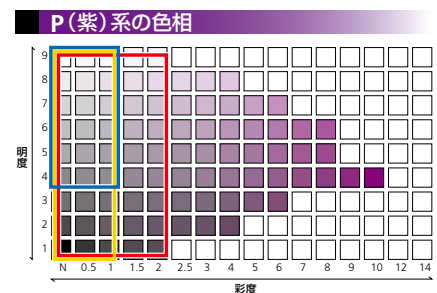
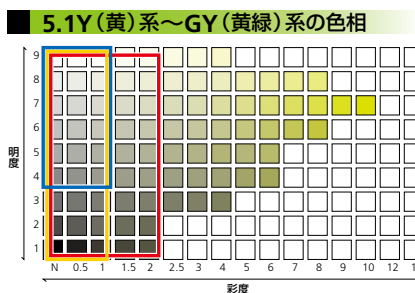
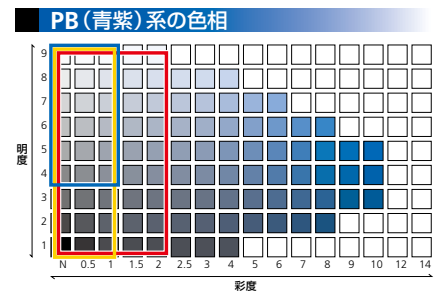
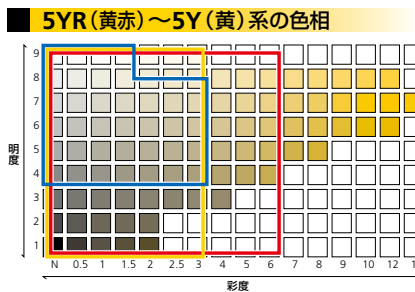
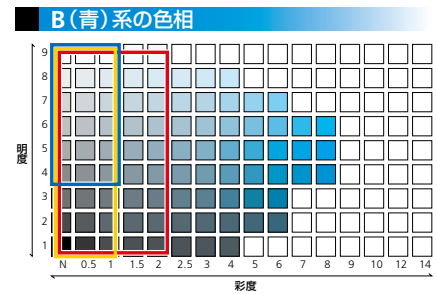
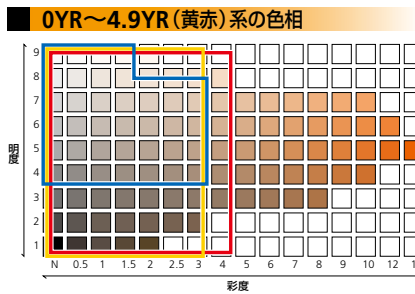
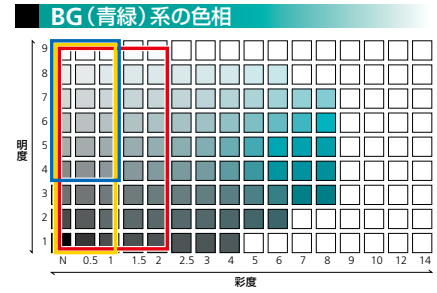
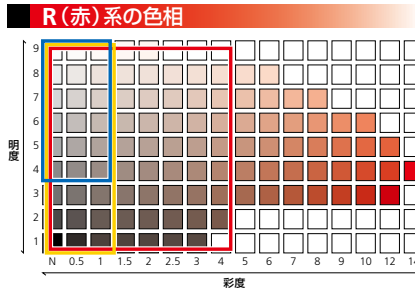
- ・外壁は、レンガで構成されています。
- ・マンセル値で10R4.0/6.0程度の色彩です。



東京駅丸の内駅舎（外壁色10R4.0/6.0 彩度:6）

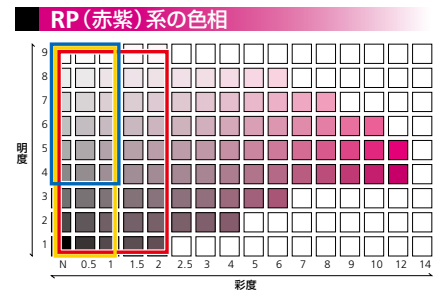
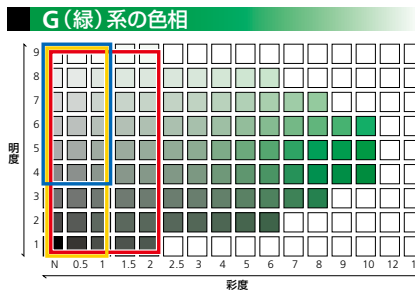
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0YR～5.0Y	4以上8.5未満の場合	3以下
	その他	8.5以上の場合	1.5以下
強調色	0YR～5.0Y	—	3以下
	その他		1以下
アクセント色	0R～4.9YR	—	4以下
	5.0YR～5.0Y		6以下
	その他		2以下



凡例

	外壁基本色の使用可能範囲 (外壁の4/5はこの範囲から選択)
	外壁強調色の使用可能範囲 (外壁の1/5以下で使用可能)
	アクセント色の使用可能範囲 (外壁の1/20以下で使用可能)



大規模建築物等（景観条例による事前協議案件）の色彩 …文化財庭園等の眺望の保全に関する景観誘導

景観誘導の対象

制度	区域の範囲
文化財庭園等の眺望の保全に関する景観誘導	・文化財庭園等景観形成特別地区の範囲 周辺を景観形成特別地区として指定する庭園等の外周線からおおむね1kmの範囲とする。

景観誘導の目的

- ・江戸時代を中心に造られた庭園は、我が国を代表する景観として今日まで保全、継承されています。
- ・これらの庭園内からの眺望が保全されるよう、当該庭園の周辺で計画される建築物等の色彩等を適切に誘導することを目的としています。

保全対象庭園の色彩

- ・文化財庭園は、国や都から名勝、国民公園、重要文化財等の指定を受けており、市街地との境界部には、豊かな緑を配しています。
- ・これらの緑は、樹種等によって少しずつ色彩が異なり、常緑樹よりも落葉樹の方が色調が明るく鮮やかで、季節変動の幅も大きくなります。なお、緑の色彩が安定する夏季の広葉樹の緑の彩度は6程度になります。

色彩景観形成の考え方

- ・外壁の大部分については、各庭園の豊かな緑をいかした景観の形成を図るため、庭園の緑の彩度の半分程度を上限とします。
- ・外壁のアクセントとして用いる色彩については、落ち着きが感じられる中彩度までの色彩を用いるとともに、外壁各面の5%以下とし、主に建物中低層部で用いるようにして下さい。
- ・色彩計画にあたっては、建築物全体及び隣接する建築物等との形態のバランスを検討し、特に庭園景観の背景としてふさわしい落ち着いた意匠とする必要があります。また、長大な壁面を生じさせないようにし、壁面を分割するなど、庭園からの眺望に対して、圧迫感を感じさせないようにするなどの配慮も必要です。



浜離宮恩賜庭園内部からの眺望



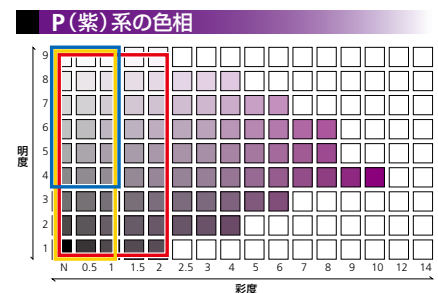
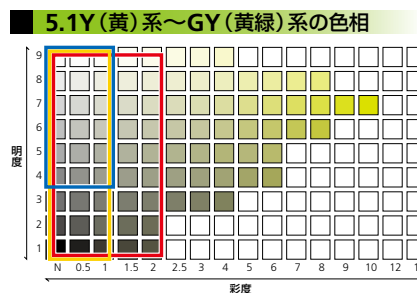
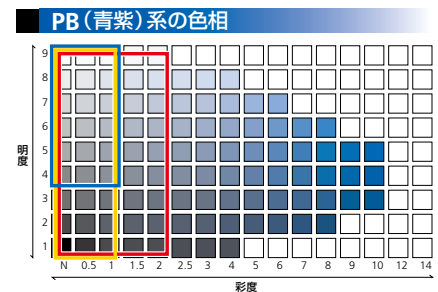
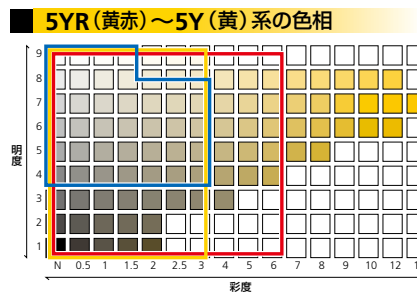
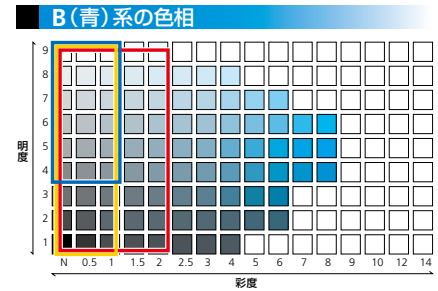
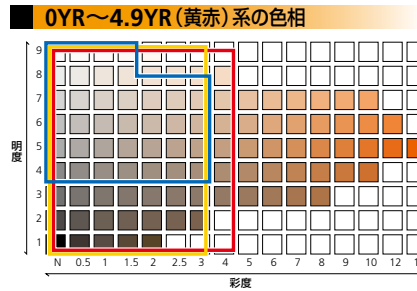
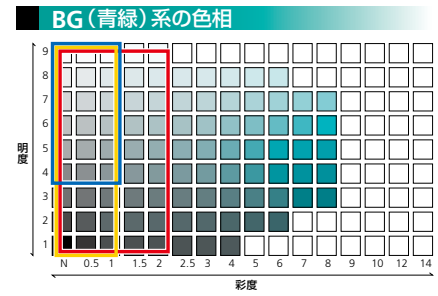
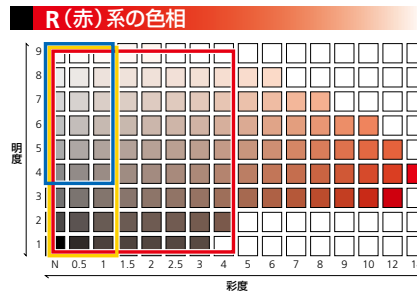
旧芝離宮恩賜庭園内部からの眺望



新宿御苑内部からの眺望

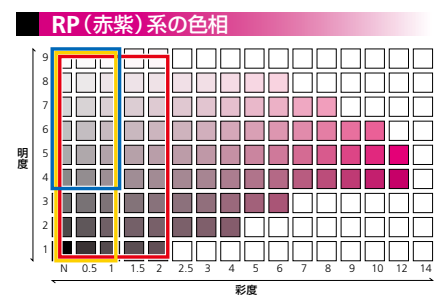
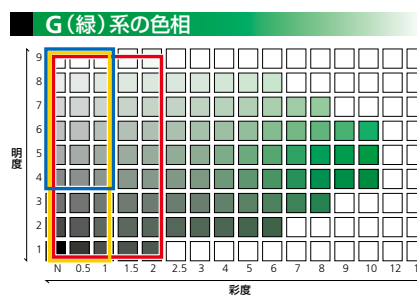
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0YR～5.0Y	4以上8.5未満の場合	3以下
	その他	8.5以上の場合	1.5以下
強調色	0YR～5.0Y	—	3以下
	その他		1以下
アクセント色	0R～4.9YR	—	4以下
	5.0YR～5.0Y		6以下
	その他		2以下



凡例

- 外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の使用可能範囲
(外壁の1/5以下で使用可能)
- アクセント色の使用可能範囲
(外壁の1/20以下で使用可能)



景観誘導の対象

制度	区域の範囲
水辺からの眺望に配慮した景観誘導	水辺景観形成特別地区の区域

景観誘導の目的

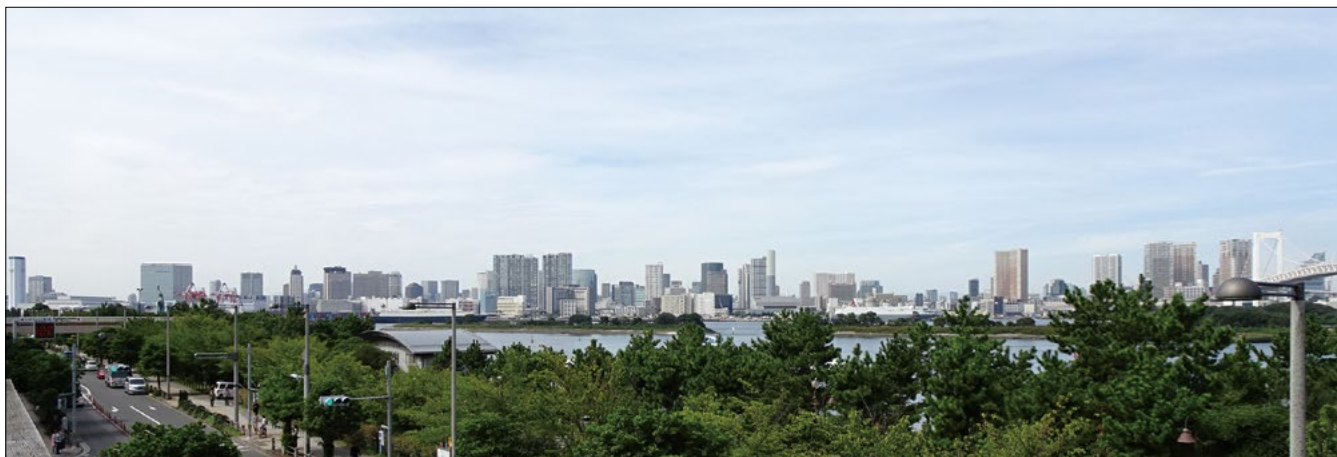
- ・本地区では、水上バス等で観光拠点間の周遊を楽しむことができ、水辺をいかした観光まちづくりが推進されています。
- ・水辺の散策路や水上バスなど、水際や水上からの視点に配慮し、美しく潤いのある水辺景観を誘導することを目的としています。

東京港の水辺の色彩

- ・海や運河などの水域により、豊かな水辺の景観を形成しています。
- ・近年、水辺の開発に合わせて親水空間が整備され、かつては閉ざされた印象のあった東京の水辺に多くの来訪者が訪れるようになってきています。
- ・こうした新しい拠点では、明るく鮮やかさを抑えた色調が多く用いられており、開放感のある東京の水辺を演出しています。

色彩景観形成の考え方

- ・外壁の大部分については、品格のある低彩度色とします。
- ・また、海辺の明るく開放的な景観を阻害しないよう、基本色について低明度色の使用を規制します。（東京港の海水面の平均的な明度が6程度です。）
- ・外壁のアクセントとして用いる色彩について、その面積は外壁各面の5%以下とし、主に建物中低層部で用いるようにして下さい。

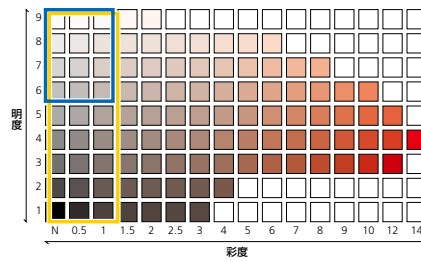


水辺景観形成特別地区の大規模建築物等の現況

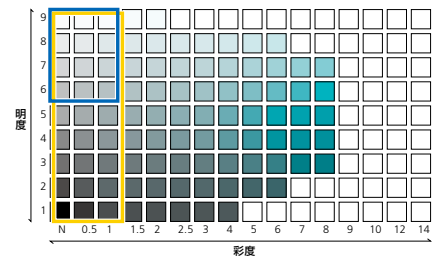
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0YR～5.0Y	6以上8.5未満の場合	3以下
	その他	8.5以上の場合	1.5以下
強調色	0YR～5.0Y	—	3以下
	その他		1以下

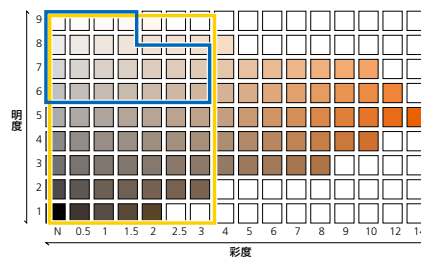
R (赤) 系の色相



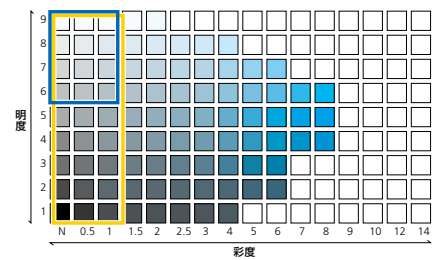
BG (青緑) 系の色相



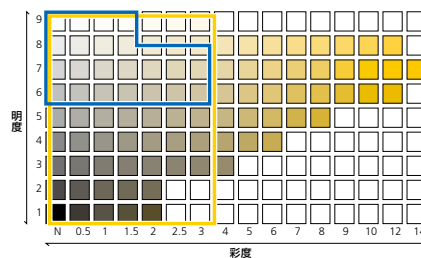
0YR～4.9YR (黄赤) 系の色相



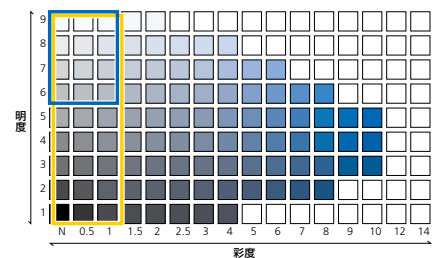
B (青) 系の色相



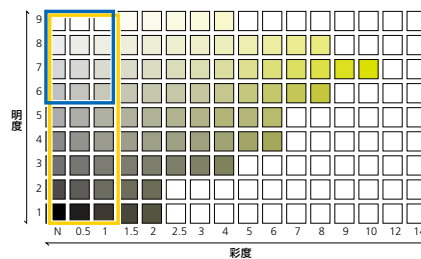
5YR (黄赤)～5Y (黄) 系の色相



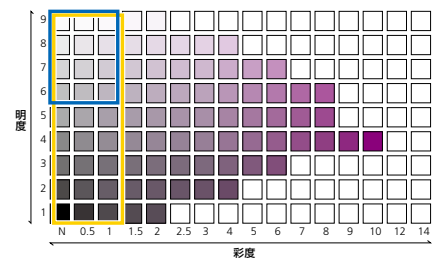
PB (青紫) 系の色相





5.1Y (黄) 系～GY (黄緑) 系の色相



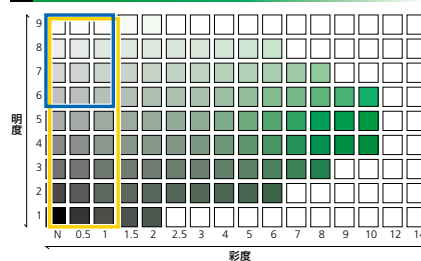
P (紫) 系の色相



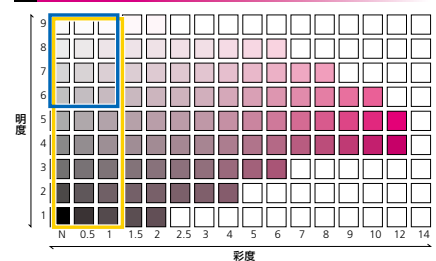
凡例

-  外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)
-  外壁強調色の使用可能範囲
(外壁の1/5以下で使用可能)

G (緑) 系の色相



RP (赤紫) 系の色相



景観誘導の対象

制度	区域の範囲
皇居周辺の風格ある景観誘導	特別史跡江戸城跡及び史跡江戸城外堀跡を含み、一体的に首都としてのこの風格ある景観形成を図る区域

景観誘導の目的

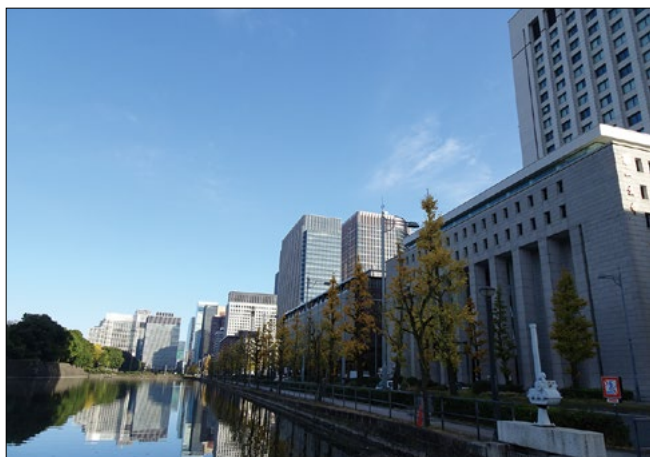
- ・豊かな水と緑を抱える皇居周辺地域は、江戸城下の骨格を継承し、我が国の近現代化の過程で首都を象徴する建築物が造られ、二重橋周辺や濠を見通す眺望など、外国の首都と比べても遜色のない見事な景観を備えています。
- ・我が国の政治経済機能の中核も立地する皇居周辺地域における活発な都市づくり活動を適切に誘導し、緑や水辺など皇居周辺地域の優れた景観を保全するとともに、それらと調和し、世界に誇れる首都東京の顔づくりに貢献する良質なデザインによる大規模建築物等の実現を促進することにより、首都東京の魅力の向上を図ります。

皇居周辺の街並みの色彩

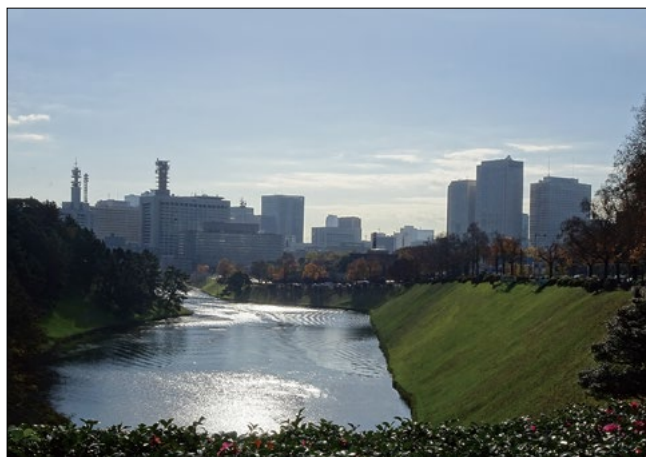
- ・風格を感じさせる落ち着いた外観の高層建築物が整然と建ち並び、首都にふさわしい景観を形成しています。
- ・石材などの自然素材を基調とした建築物も多く、暖色系色相の低彩度色や無彩色などを中心とした、落ち着いた色彩の建築物は、緑豊かな皇居の景観と調和しています。
- ・低層階には店舗などにぎわいの要素も見られ、海外からの来訪者等も含め、数多くの人々の交流が生まれています。

色彩景観形成の考え方

- ・外壁の大部分については、緑豊かな皇居周辺の景観との調和を図るため、皇居の緑の彩度の半分程度を上限とします。
- ・首都東京の顔にふさわしい、風格ある外観とするため、石材等の上質な材料を用いたり、形状や材質にあわせて色彩に変化を付けるなど、遠・中・近景からの見え方に配慮した色彩計画とすることも大切です。
- ・外壁のアクセントとして用いる色彩については、落ち着きが感じられる中彩度までの色彩を用いるとともに、外壁各面の5%以下とし、主に建物中低層部で用いるようにして下さい。



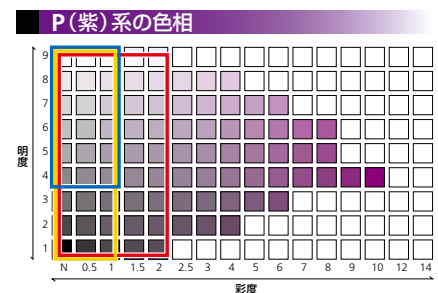
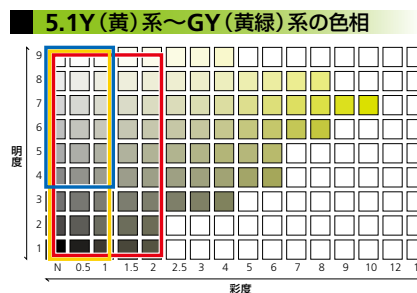
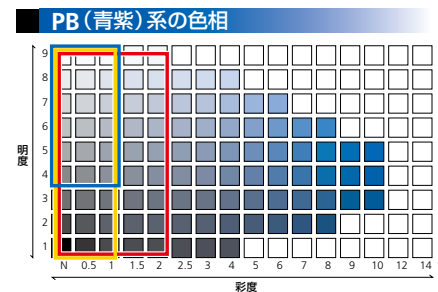
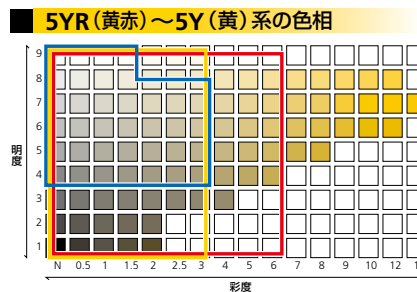
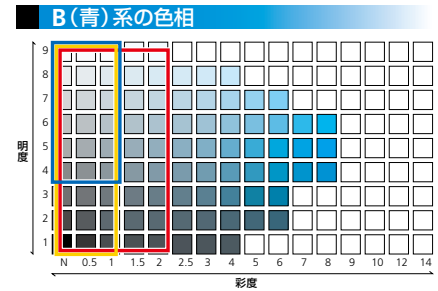
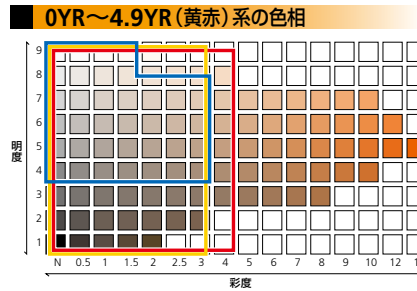
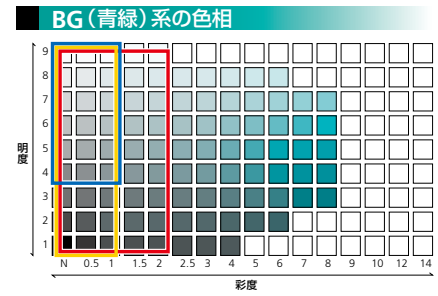
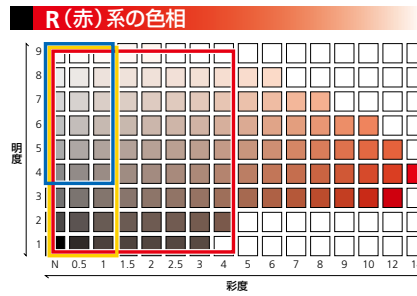
日比谷塚から二重橋方面（北側）への眺望



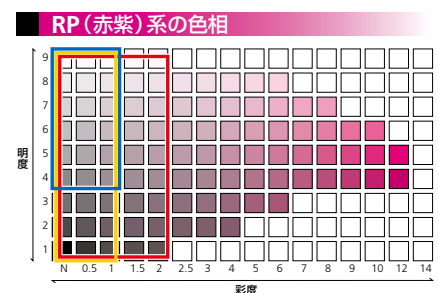
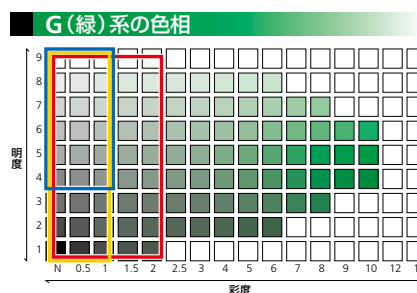
半蔵門前から桜田塚方面（南側）への眺望

色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0YR～5.0Y	4以上8.5未満の場合	3以下
	その他	8.5以上の場合	1.5以下
強調色	0YR～5.0Y	—	3以下
	その他		1以下
アクセント色	0R～4.9YR	—	4以下
	5.0YR～5.0Y		6以下
	その他		2以下



- 凡例**
- 外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)
 - 外壁強調色の使用可能範囲
(外壁の1/5以下で使用可能)
 - アクセント色の使用可能範囲
(外壁の1/20以下で使用可能)



屋外広告物と色彩景観

屋外広告物の色彩は、商品やサービスに関する情報提供や、来訪者の適切な誘導などにおいて、一定の役割を担っています。

一方、企業のイメージ戦略やCI（コーポレートアイデンティティ）カラーの表現などが過剰になると、周辺の景観から突出した派手な色使いになりかねません。また、そうした屋外広告物が乱立するようになると、街並み全体の秩序や落ち着きが感じられなくなります。

東京には、屋外広告物の色彩が活力ある都市の表情を創り出している場所も見られますが、都市の中で貴重な文化財や自然の周辺ではそれらに対する一定の配慮も必要です。

屋外広告物の景観誘導の考え方

屋外広告物による景観形成を進めるために、景観計画区域全域において、屋外広告物の表示に関する共通事項を定め、地域の景観との調和や特徴づくり、屋外広告物の集約化などを推進します。

さらに、東京の重要な景観資源である文化財庭園の周辺や水辺の地域では、街並みの個性を高め、景観の魅力を向上させていくために、屋外広告物等の色彩について一定の制限を行い、より積極的な景観形成を推進します。

屋外広告物の表示等の制限

対象地域	区分	届出対象行為と規模
文化財庭園等景観形成特別地区	広告物の色彩	建物の壁面のうち、高さ20m以上の部分を利用する自家用広告物の色彩は、庭園景観と調和した低彩度色を基本とし、一つの広告物の中で、その表示面積の1/3を超えて使用できる色彩を次頁のとおり定める。
	表示等の制限の例外	建物の背後にある広告物など、庭園内から見えない広告物については、本表に定める表示等の制限に関わらず、表示できる。
水辺景観形成特別地区	広告物の色彩	建物の壁面のうち、高さ10m以上の部分を利用する自家用広告物の色彩は、水辺景観と調和した低彩度色を基本とし、一つの広告物の中で、その表示面積の1/3を超えて使用できる色彩を次頁のとおり定める。
	表示等の制限の例外	屋外広告物条例に基づき許可を受けずに表示できる広告物には、本表に定める表示等の制限は適用しない。 この基準に適合しない広告物であっても、特にデザインが優れ、水辺景観の形成に寄与するものについては、この基準によらないことができる。

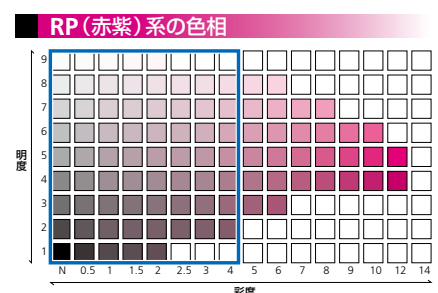
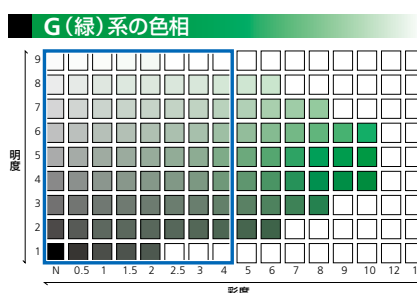
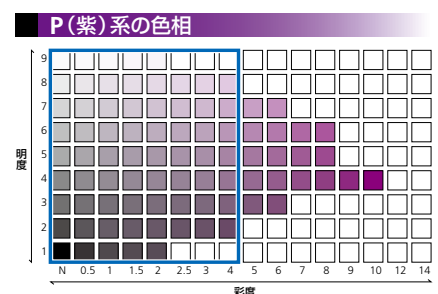
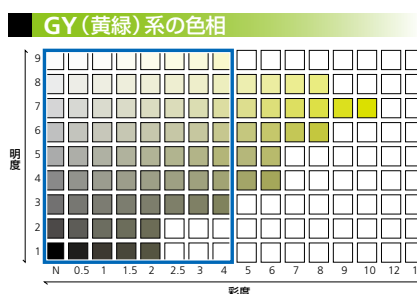
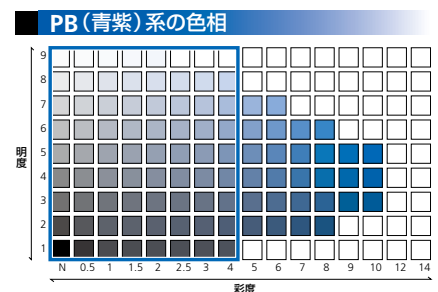
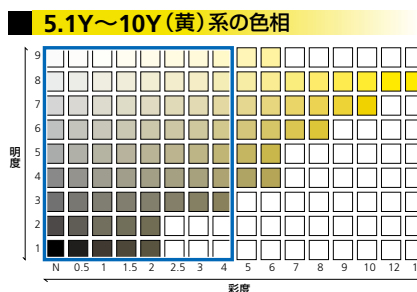
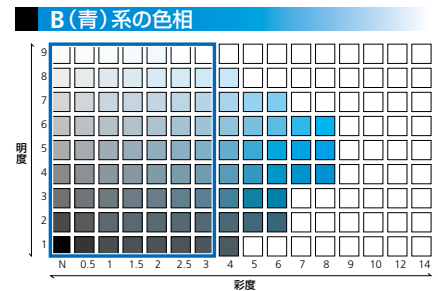
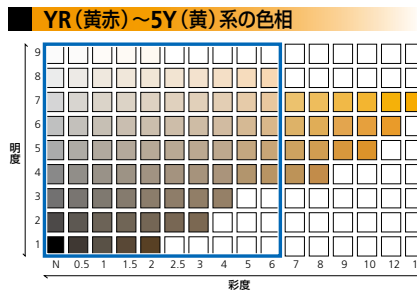
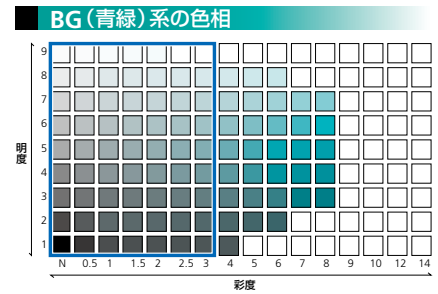
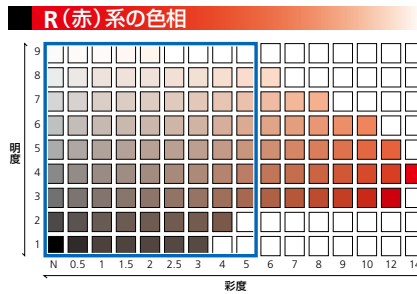
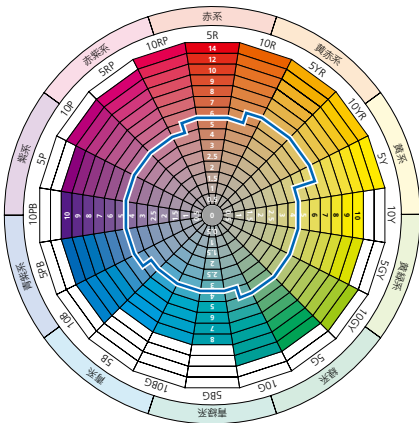
※上記のほか、墨田区景観計画、品川区景観計画等に基づく規制により、色彩基準が定められている区域があります。

具体的な規制の範囲図につきましては、屋外広告物許可申請窓口（区、市、多摩建築指導事務所、支庁）までお問い合わせください。


色彩基準による使用可能色の範囲

景観形成特別地区内において、一つの広告物の中で、その表示面積の1/3を超えて使用できる色彩は次の通りです。

対象部位	色相	彩度
屋外広告物の色彩	0.1R～10R	5以下
	0.1YR～5Y	6以下
	5.1Y～10G	4以下
	0.1BG～10B	3以下
	0.1PB～10RP	4以下



凡例

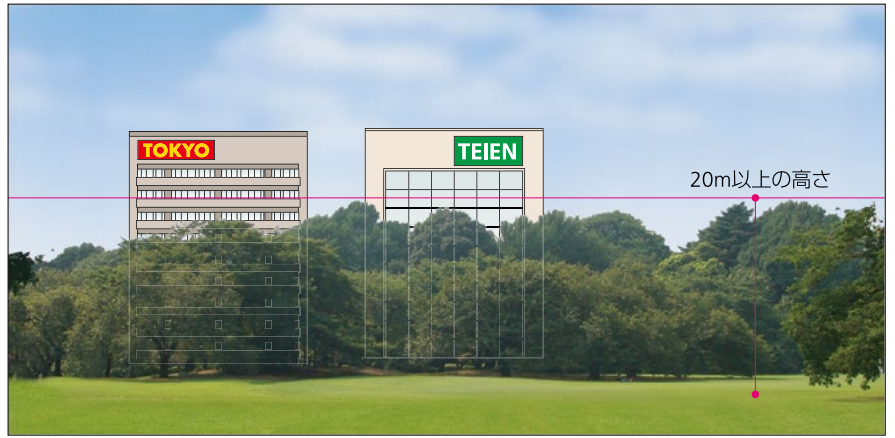
 表示面積の1/3を超えて使用できる色彩

文化財庭園等景観形成特別地区

文化財庭園など貴重な文化遺産を保存・継承するため、庭園などの周辺では良好な景観を形成し、庭園等の内部からの眺望を保全します。

屋外広告物の色彩が、庭園の緑のみずみずしさや季節感を阻害しないよう配慮することが大切です。

高彩度の屋外広告物は、反転表現にして穏やかな色彩を地色にしたり、文字のみの表現として彩度を下げるなどの工夫により、庭園への表情が優しいものになります。



水辺景観形成特別地区

観光振興の視点から水辺の魅力を向上していくため、スーパー堤防や護岸の整備、水域やテラスの活用とともに夜景も視野に入れ、河川や運河に沿った街並みにおいて、良好な景観を形成します。

屋外広告物の色彩が、水や空などの鮮やかな水辺ならではの開放感を妨げないよう配慮することが大切です。

屋外広告物は、明るくすっきりとした印象の色づかいでまとめると、水辺の雰囲気との相性が良くなります。

